

会議記録（要旨）

会議名	令和4年度 第3回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和5年2月1日（水） 午後3時～5時
場所	中央図書館 地下ホール
出席者	委員 前田委員、スギヤマ委員、中山委員、小林委員、戸賀崎委員、辻委員、淵上委員
	事務局 原田中央図書館長、奈良学校図書館支援担当係長、辻事業係長、寺崎資料相談係長、佐川企画運営係長、企画運営係（早川主査、芥川）、事業係（島谷）
欠席者	渋川委員
配付資料	令和4年度 第3回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 令和4年度 杉並区子ども読書活動推進進捗管理票 その他、委員からの持ち寄り資料
<p>1. 開会</p> <p>2. 中央図書館長 挨拶</p> <p>3. 令和4年度「杉並区子ども読書活動推進計画」進捗状況報告について</p> <p>事務局より、令和4年度第2、第3四半期について進捗状況を報告した。「学校における読書活動の推移」の部分は、学校図書館支援係長より報告。</p> <p>〈家庭・地域等における読書活動の推移〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆう杉並では、中高校生の図書ボランティアによる「ブックミーティング」が開かれ、ブッカーかけやポップ作りのほか、購入希望の本についての利用者アンケートの実施と選本が行われた。 ・高井戸図書館では大塚ろう学校に団体貸出、おはなし会を継続して行っている。 ・方南図書館では保護者向けの本の棚として「本を手渡す大人の本棚」を設置し、読み聞かせガイドブックやブックリストなどを置いている。 <p>〈学校における読書活動の推移〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語に出てくる食べ物を給食に出す「給食コラボ」が多く実施されている。また、生徒が新書を試し読みして評価する「新書試し読み」など新しい取組を始めた。 ・学校司書向け研修では、学習支援ソフト「ロイロノート」の入門研修を行った。 ・学校図書館システムを活用し、学校司書同士でお互いの授業テーマを共有し、学校間で本の貸し借りをしている。 ・天沼小学校図書館のリニューアルが完了し、新しく生まれ変わった。 <p>〈図書館等における読書活動の推移〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、コロナの波はあったが、感染対策を続けつつ図書館の事業を行った。夏休みには各館でスタンプラリーや調べ学習室開放を行い、多くの子どもたちが訪れた。 ・複数の図書館で読書バリアフリーコーナーを作った。高井戸図書館ではリーディングトラッカーを作成、配布している。 ・中央図書館では夏休みチャレンジ「図書館探偵 秘密の本をさがせ」と11月に「モンスター村へようこそ」を開催した。館内に貼ってあるクイズを解くことによって本の探し方を学んだり、物語に親しんでもらうという内容で、非接触型のイベントとして開催した。 	

- ・宮前図書館ではスギヤマカナヨさんを講師に、ワークショップ「オリジナルキャラクターを作ろう」を開催した。描いてもらったキャラクターの中から新しい宮前図書館のキャラクターが選ばれ、子どもたちが直接図書館の運営に参加できる機会を得られた。
- ・「図書館を使った調べる学習コンクール」は多数の応募の中から22名の受賞者が決まり、11月に授賞式が行われた。
- ・「すぎなみ本の帯アイデア賞」の募集が10月にあり、審査を経て20名の受賞者が決まった。
- ・10月に杉並第二小学校4年生全クラスが中央図書館の見学と図書館の本を探す体験学習を行った。

〈読書活動における情報の発信〉

- ・杉並区子ども読書月間標語の審査の結果、大賞1点、入賞3点が選ばれ、図書館HPで発表した。
- ・社会教育関係施設等連絡作業部会にて、夏休み子ども向け催しカレンダーの作成、発行を行い、区内小学校全児童に配布した。

〈読書活動を推進させるための体制と関係機関の協力・連携〉

- ・第3四半期には、地域子育てネットワーク主催のウォークラリーや、放課後居場所事業のお祭りに参加するなど、地域連携が進んだ。

【質疑応答】

委員：杉二小の本を探す体験はどのように実施したのか。

事務局：図書館職員が分類やオパックの使い方などの説明をし、書架を見ながら探し方の説明をした。子どもたちはあらかじめテーマを持ってきていて、そのテーマに沿った本を探した。

委員：高井戸図書館で特別な配慮を必要とする子どもに対する取組をしていることはわかったが、筆談ボードなど、窓口に来た人への配慮はあるのか。

事務局：各館で筆談ボードを置いている。高井戸図書館では、特別な配慮に対する取組についての研修を行っている。

委員：西高以外で、高校生ボランティア受入れはないのか。

事務局：他の高校からの申し出は来ていない。

4. 子ども読書活動について

委員：今年度から就任した委員に、杉並区の子どもの読書活動に期待することなど、普段の生活の中から感じたことをお話していただく。

〈委員の発表〉

- ・自分は読書好きな一市民だが、自分の子どもにもっと本を読んでほしいとっていて、子どもの読書を推進するという活動に興味があり、懇談会の委員に応募した。
- ・図書館には、まず選書と保存に期待している。自分の家の近くに書店がなくなってきている。書店では、出版後数か月すると本が消えてしまう。地域の図書館はよく利用しているが、図書館には絶版の本もある。図書館では、長い目で見て残る本を置いてほしい。書店と図書館はライバル同士というよりも共存しあう関係だと思う。図書館は文化を下支えしていると思う。売れ線だけでなくよい選書をしてほしい。
- ・もう一つ、図書館の地域交流に期待する。図書館は誰にでも開かれており、ふらっと来てもいい場所だ。子どもの読書は、親が読書に興味がないと難しいので、ゆくゆくは図書館で本に触れあえる環境が欲しい。年齢、障害の有無、外国人関係なく一番入りやすいのは図書館だと思う。年齢別または年齢関係なく多世代交流で、利用者が主催する形で読書会を開催してもよい。図書館の中でしか聴けないラジオ放送に参加してもらおう取組、子どもたちが犬に読み聞かせを

する読書犬の取組もよいと思う。図書館でいろいろできる取組がある。

【質疑応答】

委員：品川区の図書館では出版年が古い名作絵本が書庫にあり、検索して見つけ出した。杉並区では古い絵本の掘り起こしはしているのか。

事務局：「お母さんも読んだ本」など、古い本を掘り起こす形でしばしば展示を行っている。保存庫にある古い本を展示できる。また、レファレンスで本の題名がわからない利用者からストーリーを聞いて、以前に読んだ本を見つけて出すこともある。書店は図書館のライバルではなく、古い本を所蔵していることは、図書館の強みだと思う。

事務局：出版年が古い新しいは関係なく、よい本は開架に出している。基本的に「絵本の庭へ」（児童図書館基本蔵書目録）に掲載されている絵本は開架に出すようにしている。本の背に小さいシールを付けて区別し、面を出して配架している。大人は蔵書検索をして書庫にある本も見つけ出せるが、子どもにはそれができない。

委員：図書館でこれは面白そうだというイベントはあるか？

事務局：公共の場として各種のイベントを開催している。中央図書館では月に1回科学あそびの会と子ども映画会を開催しているが、関連本と一緒に展示し、今まで手に取ったことのない本を手に入る機会を提供している。展示やイベントは本とまったく関係ない内容では開催できない。他区では出版社と連携してイベントを行ったが、杉並区では一業者を入れてのイベントは難しい。できるところからやっていく。

委員：12月に荒川区ゆいの森図書館で、近隣の支援学級の子もたちを招き、読書バリアフリーのデモンストレーションとして、ガラス張りの向こう側にいて、聞こえない状況で絵を描くというアートコミュニケーションを行った。本に関わるイベントではないが、図書館でそういうことをやってくれるということが公共の場として開かれていると感じた。

5. 意見交換「区内高校との連携」

委員：高校生が図書館を利用しないことが問題なのか？

事務局：図書館と高校との連携が取れていないことが問題で、高校生世代をいかにして本から引き離さないでいけるかが課題だと考えている。

委員：愛知県の高校では在校生1000人のうち、10人しか図書館で本を借りていない。高校生になっても本を読む環境にするにはどうしたらいいか、小中学校の先生にお聞きしたい。

委員：小学校では、変化の大きい時代に自分を認めながら生きていくために、資料を自分の力で選ぶ力をつける授業を行っている。学校のなかだと限られた資料になる。高校生には、真実をわかるようになるために、ネットだけでなく紙の本を読む力をつけてほしい。

委員：こういう高校生になってほしいという期待はあるか。

委員：高校生になってもみんなで協力し、よい社会を作っていける大人になってほしい。

委員：中高生は本は読んでいるが、彼らにとっては読まされている読書でしかない。SNSを使うのが日常である彼らに、活字から得られる感動を味わせるにはどうすればいいか。とても大きな問題だと思う。今の時代の中で、何を図書館でやっていけばいいのか。学校図書館は展示も充実しておりすばらしい図書館だと思うが、利用率は伸びない。中学校でやっていることは本当に身になっているのか、そこから考えていかななくてはいけない。

事務局：小平市や国立市には中高生委員会が組織されている。例えば「小平ティーンズ委員会」は小学6年生から中高生の有志が集まり、読書会の開催や、10代に読んでほしい本をティーンズ委員会大賞として選出したりする活動を行っている。そういう組織を作って活動してもら

うのも一案だ。全部がSNSではなく、読書に対して愛着を持っている子も共存していると思う。そういう体験をしている子たちに知恵を借りたらいい。

委員：学校図書館サポートデスクが区内の高校を対象にすることはあり得るか。

事務局：仕組みとしてはない。

済美教育センターでは、都立高校と連携した会議を持っており、高校の教員と情報交換している。都立西高に西宮中の生徒が体験に行ったり、工業高校に近くの中学生在がモノづくり体験に行くなど交流しており、読書活動で入る余地はあるとのことだ。

事務局：都立高校なので、杉並区として支援もしているが、東京都と仕組みが違う。西高の生徒は奉仕活動の一環で向こうから図書館を選びボランティアに来てくれたが、そこから本当の図書館ボランティアになってほしい。区立の学校だと行政的につながりやすいが、都立・私立高校にどう関わっていくかお知恵をいただきたい。

委員：せっかく杉並区で小・中学校の読書活動を活発にしているので、区内高校の読書活動につなげられたらいい。

委員：自分が高校生の時は、文化部の活動は校内で完結し、世界の広がりがなかった。他校とつながり、学校を超えて文化部が発表できる場を図書館で設けてはどうか。一箱本棚を高校単位で選書して並べるのもよい。学校によって本棚の個性が出て面白いと思う。公共図書館が働きかけることにより違う高校とのつながりができれば、今の高校生たちにとってよいと思う。

委員：部活動で忙しいと言いつつ、スマホは使っているようだ。それはどんな感覚なのだろうか。

委員：スマホは楽だからつい触ってしまい、本は気合を入れないと読めないのではないだろうか。スマホを見ていても、気になることがあるとちょっと調べたいというスイッチが入るので、きっかけはスマホでも、もっと深めたいという方向に行けばよいと思う。

委員：高校の図書館を何校か見学したが、どこも充実している。学校の図書館をしっかりと利用することができていれば、公立図書館に行って調べたりできると思う。ただ、高校生が学校図書館をどの程度利用しているかつかめないので、司書にアンケートを取り、どれくらい利用しているか調べるのが大事だ。本が好きな子は学校図書館が充実している学校を選ぶ。小平市の例もあったが、そういう子たちの力で読まない子に働きかけるのが大事だ。本が好きな子は、友達同士で本を薦めあったり貸し借りしている。読まない子たちに本が好きな子が、本の面白さを伝えたり、コミュニケーションを取っていくところから始めたほうがいい。公共図書館に高校生をいきなり呼び込むのはハードルが高い。

また、受験問題に出てくる評論家や作家のコーナーを作って紹介するのも、入口としてきっかけになると思う。本の並べ方も大事で、棚に余裕を持った配置が手に取りやすくなることにつながる。

委員：日本の子ども読書政策は受験と連動している。思考力型の受験であり、その思考力を育むための読書活動という形になっている。区内の公立・私立高校の教員に、地域の公共図書館の展示にかかわってもらい、選本してもらおうのがよいと思う。

杉並区図書館の来年度事業に、区内高校の実態調査を盛り込むことはできるか？

事務局：高校の図書室の実態はわからないので、まずは実態の把握をできるところから始めたい。

高校生はスマホでマンガを読んでいるようだが、電子書籍も読んでいるのか。

委員：スマホで電子書籍を読むというほど普及していない。小中学校でどれだけ読んできたかが、高校生の読みの熟達度につながる。これから読むという行為が、どんどん変わっていくと思う。

事務局：図書館ではまだ電子書籍を導入していないが、高校生が電子書籍なら読むのであれば、検討

の一つの素材になる。

委員 : 東京学芸大学附属小金井小学校ではパッケージで電子書籍を利用している。先生が本を紹介してもリアルの本だと1冊しか貸せないが、電子書籍だとクラス全員いっぺんに貸すことができ、一度に読むことができる利点がある。小学生も電子書籍に違和感はなかったということだ。リアルの本は嫌いだが電子書籍ならいいという子もいる。

委員 : 杉並区内には19校の高校、インターナショナルスクールが2校ある。区内高校すべてに声をかけ、一箱図書館を作ってもらうのがよい。図書委員会や有志を募り、中央図書館の蔵書から選んで、学校の特色が出るようなテーマを決め、区内高校で一箱ずつ21個の本箱を作ってもらおう。区内在住の区外に通う高校生にもチャンスをあげたいので、個人参加も可能とする。中央図書館の蔵書を知ってもらい、同時に、高校生がこんな本を選ぶんだと他の世代に知ってもらえる機会となる。それぞれの高校図書館のアピールを一緒に展示すると一石二鳥だ。

委員 : 高校生が授業で学校図書館や公共図書館を利用するために、公共図書館ではどんな支援ができるのか。

委員 : 情報リテラシーを育成してほしい。ネット上では無料で検索できる資料が増え、ウェブ上の情報があふれている。こういう調べかたをすると、必要とする情報に行きつくという支援をしてほしい。イギリスの公共図書館で「地図の読み方」という企画があった。このような企画は日本の児童、青少年サービスにはない。地図の読み方や地図記号を調べるなど、地図上でわかることの面白さ、資料と向き合うとこんなことができるという企画をイベントでやってほしい。

また、書店店主や出版社と、中高生が語る場を設けてほしい。「読書の時間」というNPOを立ち上げた盛岡の書店員だった方は、いろいろな学校で「読むとは何か」、「本とは何か」というテーマで、未来の本の読み手である中高生向けの企画をしているが、このように、読むとは何かということの中高生に考えてもらうような企画も必要だ。

中央図書館外のウッドデッキや公園ならば、書店がブックフェスティバルを開くのは可能かもしれない。中高生が実行委員会となり、いらなくなった本を持ち寄って「一箱古本市」を開くのもいい。書店や区内の出版社と共同でイベントができないかと思う。

高校の写真部に依頼し、読書や本をテーマにした写真を撮ってもらい、館内で展示するのもよい。また、演劇部や美術部等の部活の催しを図書館でやり、その催しに関する本を展示する。高校生と図書館が、読むということや文化的なこととつながりができると思う。

委員 : そもそも読書は何のためにするのか、自分という真ん中がないと読書は楽しめないと思う。自分というフィルターを通して考えたり、新しい視点を得たりしなければ読書は楽しくない。それは本からではなくいろいろな体験から作られていき、なおかつ本を読んだことでアップデートされていくのが読書の楽しみだ。多感な時期の中高生は、こんなことを考えてこんな本を読んだということをお互いに知る刺激が必要だ。一人で読んで自分の中で熟成されていく子もいるが、人と関わって読書の話をする場づくりは大事だと思う。高校生はいったん読書から離れる時期もあっていいと思うが、そういう場があれば集まりたい子もいる。テーマを決めて開催するイベントがあると、学校を超えて集まる機会ができたり、市民が参加できたりすると思う。広島市の図書館では中高生ボランティアの会があり、ゆう杉並のように交流する権利がもらえる。呼び掛けられる場、集まれる場、本の交流ができる場があったら、もう少し楽しく、本を飛び越えた立体的なかかわりができると思う。

委員 : 三重県津高校では地元で社会貢献をしている人と呼んで図書館カフェを開いている。中高生

が進路を決める上で、話を聞く機会があるのはとてもよいと思う。直接本に関わらなくても、そういうイベントを開催してほしいと思う。岩波ジュニア新書などノンフィクションの著者の話を聞くイベントを開いてもよい。人生を考える大事な時期に、いろいろなことを考える機会を設けてほしい。

委員： 次回の懇談テーマは、「私が海外に移住したら、こんなサービスを図書館から受けたい」という内容にしたい。杉並区の図書館では、マイノリティに対する議論が進んでいない。その中で、来日外国人に対するサービスはまだ全然進んでいない。外国人のニーズに応えた図書館サービスを自分のこととして考えてみたい。

自分が子どもと一緒に海外に住むことになったら、現地の図書館からこんなサービスを受けたい、子育ての中で、こんなサービスが受けられればありがたい、という視点で、次回までに考えてきていただきたい。

事務局： 子ども読書活動推進計画のP24「子どもの多様性を重視した幅広い資料の収集」につながるテーマになる。

6. その他自由討議・情報交換

- 「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）および解説」（立教大学名誉教授 永田治樹）
- 「三島北高校図書委員からのおすすめ本」（三島市立図書館だより）
- 「高校生のための読書のしおり」（令和2年度）沖縄県の高校生に配布。学校図書館の活動も紹介している。
- 絵本を使ったワークショップを掲載「絵本まるごといただきま〜す！」子どもの未来社より刊行

7. 事務連絡（次回開催予定）

事務局：今年度の懇談会は今回で終了となる。来年度も年に3回程度開催し、第1回懇談会は6月頃に開催したい。4月以降、日程調整を行う。